

## 令和4年度 第1回にしお男女共同参画市民会議 会議録

日時	令和4年10月7日（金） 午後1時30分～	
場所	西尾市役所5階53会議室	
委員	出席者	大嶋信吾 牧仁美 鈴木順充 松井知代美 杉浦正浩 永塚史穂 顧問 柳本祐加子 順不同敬称略
	欠席者	赤堀 松本 順不同敬称略
事務局	市民部 地域つながり課 課長 手嶋 市民部 地域つながり課 主任主査 白木 市民部 地域つながり課 主査 山崎 株式会社ジャパンインターナショナル総合研究所 江口 株式会社ジャパンインターナショナル総合研究所 鈴木	

### 1 あいさつ

(事務局)

開会に先だち、地域つながり課長の手嶋よりごあいさつを申し上げます。

(事務局 手嶋課長)

課長あいさつ

<資料確認>

### 1 委員について

(事務局)

にしお男女共同参画市民会議委員については資料1のとおりである。令和2年12月1日から委員になり初めての顔合わせとなる。本来であれば自己紹介をお願いするのだが、時間の都合上、名簿の配布に変えさせていただく。令和2年度の書面会議のなかで会長に尾崎啓子様を指名していたのだが、令和4年8月5日に病気のため亡くなられた。よって会長が不在のため、会長の職務代理として副会長の赤堀委員に依頼している。また、今年度から、西尾市教職員組合女性部代表の交代に伴い、西野町小学校の永塚史穂先生に当会議の委員にご就任いただいたことをご報告する。

本日、令和2年11月30日まで市民会議の会長としてご尽力いただいた加藤晴子様より退任のご挨拶を申し上げます。

(加藤)

加藤前市民会議会長よりあいさつ

(事務局)

続いて、事務局の紹介をする。また、委託している株式会社ジャパンインターナショナル総合研究所の江口様と鈴木様である。簡単に自己紹介をお願いします。

(ジャパン総研 江口)

自己紹介

(ジャパン総研 鈴木)

自己紹介

(事務局)

では、松井様に本日の議事進行をお願いします。

## 2 議題

### (1) 第3次西尾市男女共同参画プランの策定方針について

<事務局より、(1) 第3次西尾市男女共同参画プランの策定方針について【資料2】に基づき説明>

(会長代理 松井)

事務局より説明があったが、ご意見やご質問等はあるか。特にないようなので、次の議題に移る。

### (2) 男女共同参画に関する意識調査について

<事務局より、(2) 男女共同参画に関する意識調査について【資料3】に基づき説明>

(会長代理 松井)

事務局より説明があった。今回の調査の目的等について委員よりご意見をいただきたい。

(牧委員)

どれくらいの回収率があるのか。

若年者の調査についてだが、中学生と高校生は全員やるのか。

私宛てにも市民調査が届くことがある。しかし私は回答をしていない。回答をしない理由は、自分の意見がどのように使われるのか、どれくらい反映していただけるのかが分からないからである。このような会議に何度か参加させていただいたのだが、意見が反映されたことが一度もない。反映されないと「意見を言うだけ無駄なのかな」という気持ちになる。それは私だけではな

く、他の委員も感じていることである。調査をする目的が回答する人にどれくらい伝わるのか、また、伝わるような方法を実施しているのか、自分の意見をどれくらい反映されるのか、どこに反映されるのか、どのような目的でやっているのかを分かるようにするべきである。その点について、事務局ではどのように考えているのか。

(事務局)

市民の意識調査は男性 1,500 人、女性 1,500 人の合計 3,000 人を予定している。回収率については、例年だと 50%前後の回答率である。

中学生・高校生の調査については、市内の中学生 250 名を対象としている。なお、今回はひとつの中学校の 1 学年で依頼している。高校については、市内の高校 3 校、100 名ずつ依頼をしている。学校の授業の前後に実施していただくように話をしているので、回収率は 90~100%を想定している。

市民のアンケートの回答がどれくらい反映されるのかについて、株式会社ジャパンインターナショナル総研の江口様より説明をお願いします。

(ジャパン総研 江口)

前々回から調査を継続的にやらせていただいているのだが、男女共同参画の分野自体が国でも定期的に世論調査をしている。今回の調査も国の世論調査に合わせた形で見ている。「国と比較して西尾市の意識はどうか」をしっかりと把握していくことが基点になると考えている。経年で調査結果を見ていると、前回くらいから固定的性別役割分担に反対する人のほうが増えてきたということがターニングポイントとして分かってきた。よって、啓発はどこに力を入れたらいいのか、世代、対象を絞り込んだり、全体としての西尾市の水準を把握するということと、細かい施策については推進にあたって検討いただくというという認識で進めていきたいと考えている。

市民への啓発については、計画の中に盛り込んだり、概要版に抜粋して、というのがあるのだが、やはりどうしても一部の人にしか伝わらないというのは確かにそうだと思うので、広報方法の検討をさせていただきたい。

今回、回答のハードルを下げる試みとして、WEB回答も可能にした。こういったことも踏まえて回答率を上げていければと思う。

(牧委員)

調査票が送られた方のみ、WEB回答もできるということか。

(ジャパン総研)

そうである。

(杉浦委員)

せっかく調査をするのであれば少しでも 100%に近い回答率を目指したい。自分だったらどうしたら回答をしたくなるか考えた。私は自分に届いた様々な案件の調査票は、自分が市政に参加したいという気持ちから全て回答をしている。どうなるかという目的を書いたほうがよい。なぜ、

自分が選ばれて、なぜ書かなくてはいけないのか、ということをもう少し分かりやすく、事前に教えていただけると回答をしたくなると思う。

(会長代理 松井)

では、今回の調査の目的等について、柳本先生の考えを伺いたい。

(柳本先生)

私より、皆さまのほうが西尾への愛が強いと思うので、もっと皆さまのご意見を伺って私も勉強していきたい。

この調査票のベースになるものは数年前に株式会社ジャパンインターナショナル総合研究所の江口様と一緒に作ったものである。先ほど、委員から「回答をどのように使われるのかが明らかでない」、「中村市長が問いかけているが中村市長からの返事があるのか、ないのか」とご意見があった。私もそういったところは大切だと思っている。例えば、問合わせ先に地域つながり課とあるが、課が統計資料として自分の意見を活用しているということなのかな、というよりも、顔の分かる中村市長に自分の意見を伝えるのであれば、中村市長が把握して今後の男女共同参画の西尾市の政策に何かの形で生かしてくれるのかなと思える。もう少し具体的に感じられるような形にしていくとよいと思う。確か、中村市長は子育ての件で雑誌に取り上げられたことがある。そのような人であるということも踏まえていくとよい。今回の市民意識調査の結果について、このように市長が捉えていてくれるというメッセージが放たれると、市民の意識も違ってくるかもしれない。先ほどご意見であったように、冒頭に個人情報の取り扱いについて書くことは重要なことではあるが、「こんなふうに皆さまの意見を受け止めて生かしていきたい・計画している」と書いた方が、より身近により具体的に感じられるのではないか。

困難を抱えるということだと、内閣府の国のレベルで調査された結果なのだが、コロナで女性の負担が増えたと言われている。夫婦ともに家にいて、子どもの面倒も夫の面倒も全部妻が見なくてはいけない状況になっている。更に、生活のなかでDVが起きたり、だからといって、このような状況なのですぐに逃げるとも難しい。女性に大きな負担やしわ寄せが出ているという調査結果が出ている。西尾市も、そういう性差があるかどうか知りたいとするならば、この調査でしっかり結果が出るのかどうかということは、他の調査の手法や内閣府が先行して実施している調査をご覧いただき精査してほしい。西尾市の経年比較を見ていくこと、新しく出てきたコロナの女性への影響はどうかということ、あとは、このような現状のなかで若年者はどのように考えているのか。これは第5次総合計画に関わってくることだと思う。そういった計画との関連性をみた上で、若年者がどのように今の状況を見ているのか把握できるような形での手法を考えていただければと思う。

(永塚委員)

若年者の調査についてだが、紙だとそんなに多く配れないと思う。中学生はひとり1台のタブレットを持っているし、高校生は携帯やタブレットを持っている人が多い。市民調査でQRコードでWEB回答ができるのであれば、若年者にはWEB調査の方法をとればもっとたくさんの意見を集めることができるのでは。

(事務局)

WEBで調査を配布するかについてだが、教育委員会で先生にも相談したのだが、インターネットが上手く繋がらなかったり、先生からの指導や説明の時間がかかってしまうのではと言われた。今回は確実性ということで紙に決定した。

(永塚委員)

分かった。

(事務局)

WEBだと気軽に回答をしていただけるかもしれない。次回の調査の時にもWEB調査を検討していきたいと思っている。

今回の調査の案を事前に配らせていただき、この場で意見交換ができればよかったのだが、ご案内するのが遅くなってしまい大変申し訳なかった。この調査票をご確認いただき、意見があるようであれば10月13日(木)までに事務局まで連絡をお願いします。13日までであれば反映することができるので、ご協力のほどよろしくをお願いします。本日いただいた意見についても、次回の構成のときに考慮して変更をしていこうと考えていることをご承知おきいただきたい。

(会長代理 松井)

それでは次の議題に移る。

### (3) 今後のスケジュールについて

(会長代理 松井)

それでは、議題(3)今後のスケジュールについて、事務局より説明をお願いします。

<事務局より、(3)今後のスケジュールについて【資料4】に基づき説明>

(会長代理 松井)

事務局より説明があった。提案のあった調査票(案)の最終確認の方法についてご意見はあるか。特にご意見がないようなので、柳本先生と会長代理に一任してもよいか。

(委員一同)

異議なし

(会長代理 松井)

それでは、本日委員の皆さまよりいただいた意見を反映させて、調査票(案)を事務局から提示していただき、柳本先生と会長代理で最終確認をし、校了とする。

他にご意見がないようなので、これにて議題を終了する。

それでは次の次第に移る。

### 3 その他

#### (事務局)

委員の皆さまの任期についてだが、3年間ということで、令和5年11月30日までとなっているが、令和4年度、令和5年度で第3次西尾市男女共同参画プランの策定業務を行うという主旨をお汲みいただき、任期満了を迎えた際には引き続きご就任いただけることをこの場を借りてお願いする。

#### (会長代理 松井)

では、柳本先生にご意見を伺いたい。それでは本日の会議を通して、また、男女共同参画に関する情報提供があればお話しをお願いします。

#### (柳本先生)

今のプラン、国が決めた方針に西尾市も合わせていかなければということもさることながら、西尾らしさを大切にしていきたい。前回の調査を見ていると、お母さんの存在が大きい。家の中心で、いつも笑顔でいて、皆が生きていくとても強いエネルギーの発信源である。お母さんという存在を心のなかで大切にしているというのが、この地域の人達の気持ちのなかに特徴としてあると感じる。それが場合によっては、だから母親はこうしなきゃいけない、妻はこうしなきゃいけないという押しつけになると、伝統的で、男女共同参画と反するようなことになってしまう。

先ほども言ったが、お母さんが中心となり、いつも笑顔でいてくれて、それが家族の中心となり、家族の生きる力や源になっているので、お母さんや女性の立場は尊重される必要がある。お母さんは本当のところはどのように思っているか、女性達がどのように思っているかということも尊重されるべきである。そうだとすれば、家族っていいよねと思っている西尾市こそが、むしろ議会などで女性のほうが割合が大きく、皆が安心できる西尾市を作っていく、そのエネルギー源となっている女性達の意見をすごく反映されているというものになるのではないかと考えることができる気がする。なぜ議会や市の職員に女性の視点が必要だとか、女性の声を取り入れるべきだとか、議員の数は半々必要なのだということを西尾市だとしたらなんで、というところに立ち返って考えていくことが必要のではと改めて思った。単に議員の半分は女性がよいのだというそれだけでなく、西尾市でそうするのはなぜかというところに立ち戻って考えていくべきである。そうすると、西尾への愛が強い人が、男女共同参画ということをも自分達が生きる場の問題として捉え直していくことができるようにならないかなと思っている。そういう意味ではすごく学ばせていただいております、国の動向も確かに必要なことではあるが、この地域に住んでいる人の幸せ度、生きていてよかった、楽しいという気持ちを抜きにして、国が示している指数を満たすことを目的にしているのはおかしな話である。ぜひ今回の意識調査をきっかけにそのあたりも具体的な西尾市の人達の気持ち、どういうライフスタイルがいいのかということ把握できるようにしていただきたい。

国ではDV対策で加害者への対策がすすめられており、来年から本格的にいろいろ実施される予定である。愛知県のなかでもいくつかの市のなかで、「加害者教育プログラム」というDVをしている男性に対して、それをやめさせられるような人になってもらう教育プログラムが行われるようになるかもしれない。女性に対する暴力という問題に力を入れていることは事実である。

(会長代理 松井)

貴重なご意見をありがとうございました。

(柳本先生)

委員の皆さまの西尾への愛にはかなわない。西尾への愛にあふれている委員の皆さまのご意見がここで活発に出て新しい計画等にも反映されることを願っている。

(会長代理 松井)

他にご意見はあるか。

(大嶋委員)

策定プランをつくっていくために、意識調査をして統計をとって次の目標を決めていくことは大事なことだと思うが、その次の目標が見えてこない。例えば、西尾市の女性管理職の人数が20年でこれくらいしか上がっていないという現状があり、それを上げようとした時に、果たしてプランの策定が男女共同参画の結果を生み出すかという生み出していないと感じる。意識調査の結果がひとつの目標になってしまっていると次に繋がっていかないのではないか。

私は保育園と小学生の子どもがいるのだが、子どもを見ていると男女は関係ない。昔は学級委員は男子1名女子1名であったが、今は男子2名でも女子2名でもよい。最近男女の意識が変わってきており、意識的に変わっていく子が育っていく。そのような子が40代50代になった頃と、今の40代、50代の考え方はそれぞれ違って来るし、その上の60代70代の人達も違う。今後、男女共同参画は自然とならざるを得ないのではと思っている。

このような会議で議論していくならば、目標が定かであってほしいと思う。

(事務局)

プランには目標値というところでは数値目標を出しているのだが、達成できているかの振り返りやできなかった理由については踏み込めていないので、そのところについては見直していきたい。

(会長代理 松井)

他にご意見がないようなので、以上で会議を終了とする。

(事務局)

本日は長時間に渡り慎重審議をありがとうございました。これをもって「令和4年度 第1回にしお男女共同参画市民会議」を終了する。

以上